

令和3年7月20日

令和3年度学校関係者評価委員会報告書

四国医療専門学校
学校関係者評価委員会

四国医療専門学校 学校関係者評価委員会は、「令和2年度自己点検・評価報告書」に基づき、以下のとおり、学校関係者評価を実施いたしました。

1. 学校関係者評価委員 [敬称略]

- ・地域住民の代表者
谷川 俊博 (宇多津町長)
- ・学校と関連のある高等学校関係者
大平 徹 (香川県立飯山高等学校 校長)
佐藤扶美子 (香川県立丸亀城西高等学校 校長)
志賀 紀之 (香川県立琴平高等学校 校長)
- ・保護者代表者
則久 宗子 (理学療法学科学生の保護者)
- ・卒業生代表者
橋本 純 (鍼灸学科卒業生)
島 かおり (看護学科卒業生)
- ・業界団体の役職者
宮武 功哲 (一般社団法人香川県鍼灸マッサージ師会 会長)
大塚 安混 (一般社団法人香川県鍼灸師会 理事)
神高 敏伸 (公益社団法人香川県柔道整復師会 副会長)
田岡 知代 (一般社団法人香川県理学療法士会 理事)
五味 陽子 (一般社団法人香川県作業療法士会 監事)
安藤 幸代 (公益社団法人香川県看護協会 会長)
山田 佳弘 (徳島県トレーナー協会 会長)

2. 学校関係者評価委員会議事録

- ・開催日時 令和3年7月4日 (日) 13:05～14:05
- ・開催場所 四国医療専門学校 3号館講堂
- ・出席者
委員:宮武功哲 (議長)、佐藤扶美子、大平 徹、志賀紀之、則久宗子、橋本 純、
島かおり、大塚安混、神高敏伸、田岡知代、五味陽子、谷川俊博、山田佳弘
(谷川と山田は委任出席)
学校役職員:
石川 浩 (学校長)、笠井勝代 (副学校長)、大麻陽子 (同)、小森元章 (学校事務局長)、襖田和敏 (鍼灸マッサージ学科・鍼灸学科学科長)、猪越孝治 (柔道整復学科学科長、スポーツ医療学科学科長)、高橋謙一 (理学療法学科学科長)、松本嘉次郎 (作業療法学科学科長)、中江秀美 (看護学科 教務主任)、六車輝美 (看護学科学科長)、山下博志 (学校事務局 総務部長/進行・書記)
- ・欠席者:委員/安藤幸代、学校役職員/青木みゆき (学校事務局 学務部長)

・議事の経過及び結果

1) 開会

山下学校事務局総務部長より、開会を宣する旨の発言があった。なお、新型コロナウイルス感染症（以下「コロナ」）の感染防止の観点から、委員及び学校教職員の紹介は出席一覧表及び配席表をもって代え、時間短縮を図りたいと説明があった。

2) 学校長挨拶

石川学校長より、委員に対し、まずコロナの収束が見えない中での出席に謝意があった。次に本校におけるこれまでの自己点検・評価及び学校関係者評価の実施状況について報告があり、各年度の委員会における意見・提言等を踏まえ、教育活動・学生支援等の改善に努めてきたことを説明した。

そして、最後に、今委員会においても、本校の更なる教育活動・学生支援等の充実・向上のために忌憚のない意見・提言等をお願いしたいと挨拶があった。

3) 委員会成立確認及び議長選任

山下学校事務局総務部長は、委員総数 14 名のうち 13 名（うち委任出席 2 名）の出席をもって本委員会が成立したことを報告した。また、委員による互選の結果、宮武功哲委員が議長に就いた。

4) 前年度の委員会提言等を踏まえた取組状況報告

議長は学校事務局に報告するよう求めた。それを受け、山下学校事務局総務部長は、昨年度の当該委員会において、「退学率の低減」、「作業療法学科入学者の増加」及び「コロナ対策」に係る意見・指摘等があり、それに対する令和 2 年度の取組及び実績等について、次のとおり、報告を行った。

「退学者の低減については、学生とのコミュニケーションの促進、保護者との連携の強化のほか、退学事由の第一位が“成績不振”によるものであることから学習習慣を身につけるための入学時教育の強化や、同第二位は“進路変更”であることから職業理解のための授業やキャリア教育を行った。ただ、退学率の目標値を 4.3%以下としていたところ、実績は 4.4%と僅かに目標に届かなかったものの、平成 29 年度の退学率が 7.0%であったのに対し、その後は年を経るごとに改善しており、令和 3 年度もこれら退学者低減のための諸施策を更に強化したい。」

「作業療法学科の入学者については、令和 2 年度の 18 人から、令和 3 年度は、コロナ禍の下での学生募集となったが、定員の 30 人を確保することができた。しかし、隔年で入学者数に大きな変動があるため、令和 3 年度は、前年度以上に学生募集活動に注力し、令和 4 年度の同学科の入学定員確保に努めたい。」

「コロナ対策については、議案 1 で報告する。」

5) 議案の審議

1. 令和 2 年度自己点検・評価報告書の概要説明

議長の指示により、山下学校事務局総務部長は、自己点検・評価報告書に基づき、その概要（コロナ対策を含む）について説明を行った。併せて、入学者数、国家試験等合格率、就職率等の実績についても配付資料に基づき説明を行った。特に入学者数については、受験者数、合格者数とも前年度比それぞれ 28 人、14 人増えているものの、入学者数は逆に 2 人減っている。つまり、合格後の歩留り率の向上を図る必要があるため、より魅力ある学校づくりが課題となることを添えた。

2. 自己点検・評価報告書に対する意見・提言、質問等

議長より委員に対し意見・提言、質問を求めた。委員の意見等及び学校教職員の回答等は次のとおり。

・志賀委員:

18歳人口の減少の中で学生数を維持していること、国家試験等の高い合格率を誇っていること、教育環境を整え、実習施設も充実していること等について、貴校教職員の努力の賜物と大いに評価するところである。ただ、保護者の立場で意見を言えば、国家試験等の合格率や就職率等の目標値は100%を目指してほしいと思っている。したがって、今の教育水準を維持しながら更なる高みを目指してほしい。

・大平委員:

志賀委員同様、貴校の教育成果は大いに評価すべきと思っている。さて、質問が2つある。ひとつは、高校ではPTA総会・役員会があり保護者や卒業生の意見を聴取する機会があるが、それらについて貴校ではどのようにしているのか。2つ目は、本校でも看護科があり、また総合学科でも福祉の授業があるため、昨年度からコロナの影響により臨地実習施設の確保に苦労しているが、貴校での対策について教えて欲しい。

・小森学校事務局長（回答）:

個別の学生に対する対応としては、担任、主任、学科長らが保護者と密に連絡を取り、面談を実施するなど、学生の修学支援に努めている。また、同時に保護者から教育等に関する意見聴取も行っている。学科毎の対応は各学科長より説明する。

・六車看護学科長（回答）:

看護学科では、前者のうち保護者に関しては、2年次の戴帽式に保護者に臨席してもらい、式後に保護者会を開き、意見交換をしている。また、卒業生に関しては、本学科の同窓会総会において教育に関する意見聴取を行っているほか、後輩のより良い教育のため教育機器等の寄附を受けることもある。また、今年度初めての試みであるが、秋季または年末に卒業生と在校生の交流会を開催する予定である。

後者については、コロナの影響があるとはいえ、4年制であることから臨地（外部）実習もある程度は実施できており、今年度も7月からは実習受入可の施設が増え、外部実習が計画どおり実施できる見通しである。なお、校内実習においてもICT機器を使用し、可能な限り外部実習に近い内容のものを実施できるよう工夫している。

・高橋理学療法学科長（回答）:

理学療法学科においては、入学式後に保護者会を開催し、また入学後間もない時期に教員から保護者に連絡を取ったり、定期試験前にその受験にあたり少しでも学生に変調があれば保護者から連絡をもらえるよう促したりするなどしている。更には、3年次の臨床（外部）実習前には保護者に来校してもらい外部実習に係る説明会を開催している（令和2年度はWeb説明会に振替えて実施した）。これらは、学校・学科の目的・意図を伝え、保護者の理解・支援を求め、同時に教育・学生指導等に関する意見等を聴取するなど保護者とのコミュニケーションを図る狙いがある。

卒業生に関しては、（一社）香川県理学療法士会及び（一社）香川県作業療法士会の事務局がいずれも本校にあり、またそれぞれの会長・役員を本校教員が務めていることから、情報収集及び発信を即時にまたは適時に行えるという利点がある。

次に、外部実習について、昨年度は受入不可の実習施設があったことから、4年次の2回の臨床実習のうち、1回を校内実習に振替え、また8週間の臨床実習を6週間に短縮し、その2週間分を校内実習に振替えるなどの措置を取った。

・松本作業療法学科長（回答）:

作業療法学科も理学療法学科と同様だが、自助具の作製などに多くの時間を割くことができたことは良かったと思っている。しかし、実際の患者と接することに

勝るものはないし、作業療法では精神領域も学ぶため、校内での演習・実習の限界を感じたのも事実である。

- ・ 襖田鍼灸マッサージ学科・鍼灸学科長（回答）：

鍼灸マッサージ学科・鍼灸学科では、保護者対応は他学科と概ね同様であるが、保護者との連絡方法を電話よりメール・SNS を多用することに切り替え、時間を選ばず意思疎通が図れたことが良かったと考えている。また、従前は当該学生に関する問題が悪化してから保護者に連絡することが多かったが、今はその兆候が表れた時点で連絡をしており、それが退学率の低下に繋がっていると考えている。なお、実際の参加者は数名だが、授業参観日を設け、保護者に実際の授業風景を見てもらう機会を設けている。

- ・ 猪越柔道整復学科長（回答）：

柔道整復学科でも、保護者との連携を密に取り、保護者も交えて面談をするなど勉強についていけない学生等への対応にあたっている。

- ・ 島委員：

コロナの影響により、外部実習がままならない状況にあると思うが、学生への教育の実施、修学支援等しっかりと行えていると感じている。

さて、就職して感じたことは、学生時代に学んだことと実際の仕事で異なることがあるため、今年度初めて卒業生と在校生の交流会を開催する予定であると聞き、非常に良い試みだと思う。

- ・ 六車看護学科長：

卒業生と在校生の交流会において、活発な意見交換ができればと考えている。卒業生から在校生に対し、仕事の理想と現実との違いについて語ってもらえれば、在校生にとって大いに勉強になると思う。

- ・ 田岡委員：

卒業生を受け入れる側としては、コロナの影響により校内実習には限界があるのではないかと感じており、それが実際の仕事のイメージが湧きにくい一因になっているのではないかと感じている。したがって、学校と実習施設（業界団体）の更なる協力体制の強化が必要ではないかと思う。

- ・ 五味委員：

令和2年度の入学者数が18人だったのに対し、令和3年度のそれが30人（定員確保）となったことを評価したい。令和4年度もこれを維持できるよう努めてほしい。

- ・ 松本作業療法学科長：

令和4年度も継続して定員を確保できるよう努力する。なお、外部実習について、7月は各施設とも学生の受け入れが可能となっているため、従前の状態に戻れると安堵している。

- ・ 宮武議長：

18歳人口の減少の最中にあるものの一定数の学生を確保し、また、退学率、国家試験等合格率、就職率等も高水準で維持していることは十分評価している。ただ、学科毎に見れば、必ずしもそうでない場合も散見されるため、学校としてはもちろん、各学科としてもそれらを高められるよう改善を要望する。

6) 閉会

宮武議長より、議題は全て終了し、本委員会を終了する旨を宣した。

以上